



ワーウィックファーム、左からホテル、
閉鎖中の旧スタンド、そしてメインスタンド



ワーウィック競馬場隣接ホテルの プールとその奥の競馬場



ランドウィック競馬場のスタンドから コースを望む

世界旅打ち気分

●第17回・シドニーその1

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2019年7月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

メンバーエリアのドレスコードも「ランドウイック・ローズビルガーデンズ」と「カンタベリー・パーク・ウェイヴィックファーム」では基準が異なり、後者ではジャケットやネクタイ必須というわけではない。これが一般エリアとなるとさらにリラックスした感じで、年齢層やや高めなあたりは南関東の昼間開催と似た感じがある。

このワーウィックファームでぜひ経験したいのが、競馬場ではなく隣接するホテルだ。ワーウィックはイングリッシュ社のセリ場が付随し

送迎バスが出ており、帰りはタクシーやUberも利用可能。全体的にハイソエティ向きで個人の旅打ちだと観覧席から確保がままならない面もあるが、やはり「レンド」の総本山なので一度は訪れておきたいものである。

ヴィクトリア州の競馬場はすべて左回り、NSW州の競馬場はすべて右回り。ヴィクトリア州は春(日本)の秋に行なわれるスプリング・カーニバルを頂点として盛り上がりを見せ、NSW州は秋に行なわれるザ・チャンピオンシップスが最も盛り上がる。」のように対称性をもつて機能してきた両州の競馬だが、このところ相手の大レースにつけて自州の新規大レースを設定するような動きもあり、言葉は悪

今日は昨年4月以来久々にオーストラリアの競馬場を取り上げてみようかと思う。当時はフレンチ競馬場とムーニーヴィー競馬場、つまりヴィクトリア州の競馬場を取り上げたので今回は「オーサウスウェールズ(NSW)州からロイヤルランドウイック競馬場と、ワーワイックファーム競馬場を」紹介しようと思う。

まず最初に、オーストラリアの州と競馬事情から紹介したい。オーストラリア各州の中でもレベルの高い競馬が行なわれているのがヴィクトリア州とNSW州で、RAの短期免許もこの2州のメトロ開催(主要開催)におけるリーディング3位以内を条件としている。

セリの開催中は宿泊代はもうろん高く、それ以前にイングリッシュの顧客でないと予約も困難だろうが、ふだんの宿泊代は意外と安い。例えばワーウィックで開催がある7月17日だと一番安い部屋が約1万5千円、リビング・ベッドルーム・バスルームの全てから競馬場を一望できるエグゼクティヴスイートでも3万3千円。私の中ではメイダン競馬場のホテルとならんで「泊まつてみたい競馬場ホテル」となっている。

もちろん、競馬場のほうも訪れる価値は十分にある。そもそもいつも格落ちといつてもメトロ開催ではあるので、一流騎手・一流厩

ているのだが、同社が購買者の利便を図るためにアコーホテルズ社とともにホテルを作ったのである。客室には馬の絵が飾られるなどして競馬の雰囲気を出しているほか、窓からはセリ厩舎か競馬場のコースが望めるようになっている。さらに、屋上のプールからは競馬場の様子が一望できる。プールに居ると馬券が買えないという問題はあるが、なんなら先に競馬場で馬券を仕込んでからプールから1次見物というのもいいかもしない。

いが「潰し合戦」のようなことが起きていた。好景気とオンライン競馬の普及によって、競馬場は维持されている現在はよいが、いずれ不毛な結果にならないか心配である。

さて、前述した「ザ・チャンピオンズ」が行なわれるのがローランド・ウイック競馬場である。この競馬場を運営するのはオーストラリアターフクラブ(ATC)で、ランドウイックのほかにローズヒルガーデンズ、カンタベリーパーク、そして後述するワーウィックファームの各競馬場を運営している。

ランドウイック競馬場は1周2,224メートルで、NSW州最大レベルのコースとなっている。四角っぽい形状のコースだが、2,3コーナーからハートが出ていて距離のバリエーションが取れるようになっている。

旅打ち目線で言うと、とにかく派立派な競馬場という印象だ。2013年に100億円以上をかけた大改装が行なわれ、特にメインスタンドとペドックは以前と全く違うものになった。

スタンドは「クイーンエリザベス2世スタンド」と名づけられ、5階建てのスタンドの中には各種個室

か憧れていた海外の競馬場とでもいう雰囲(ふんい)だ。

スタンド内はかなりリラックスした雰囲(ふんい)で現地の競馬おやじと一緒にコースを楽しめぬし、一般エリアにもハドック(マウンテンイングヤード)を見下ろせる特等席がある。それでいて場内が空いている日も多いので良しとづくめだ。

スタンドとコースの間には広い芝生ゾーンがあり、夏場はそこでビールを飲みながら……などいうのもよさそう。隣接ホテルに泊まってプールからの観戦も楽しむことを考えたら、やはり行きたいのは夏(日本の冬)とこいとこになりそうだ。

舍が参戦しており知った名前を相手に馬券を買うことができる。それでいて装鞍所などはカントリーの競馬場と同様ののんびりした雰囲気があり、出走馬や帯同しているボートをのんびり眺めることが可能だ。

スタンドもATCの職員は「古い」と言うが、味があつて悪くないと思う。(ランドウイツクの旧スタンド)と霧岡気が似てるので、設計者が同じか、あるいは建てられた当時の流行りのデザインだったのかもしれない。70~80年代に我々